

りつめい

題字・末川 博名誉総長

Ritsumeikan University
Alumni Association
立命館大学校友会報

RITS
立命館大学

No. **227**
JANUARY 2007

特集

立命館 新たな船出
川口新総長体制スタート

Brilliance
輝くひと
60

仲間と喜び合いたい！
優しき勝負師

第60代全日本アマチュア将棋名人
(株)リコー将棋部主将
山田洋次 さん('98理工)



立命館大学 校友会報

りつめい

特集

立命館 新たな船出 ③ 川口新総長体制スタート

第1部：新総長・校友会会長対談

校友は立命館と社会を結ぶ最高のパートナー

川口清史新総長・山中諄校友会会長

第2部：川口新総長のもとでの主な事業

輝くひと ①
山田洋次さん

RITSUMEI INTERVIEW ⑩

株式会社ダンネット 代表取締役社長

原 宏亮さん

恩師の窓 ⑬

小林龍馬 名誉教授 (経営学部)

須田 稔 名誉教授 (産業社会学部)

キーワードから見る現代 ⑭

“飲んだら動かない”自動車

飯田健夫 情報理工学部教授

All-Rits立命館校友大会2006アルバム ⑯

第4回りつめい読者の会報告 ⑰

校友会ネットワーク ⑱

「さんしゃ」が生まれ変わります ⑳

—2007年度産業社会学部改革の概要

Rits One ときの人 ㉑

村上直大さん

立命館学園政策ニュース ㉒

学園トピックス ㉔

学生のスポーツ&イベント ㉖

INFORMATION ㉘



仲間と喜び合いたい! 優しき勝負師



表紙の人

.....
第60代全日本
アマチュア将棋名人
(株)リコー将棋部主将
山田洋次さん ('98理工)

将棋の第60回全日本アマチュア名人戦決勝。立命館大学将棋研究会の後輩、古屋皓介さん(文1)を下し、山田さん(アマ6段)はアマ名人となった。「決勝進出など思いもよらず、スーツも持っていかなかった」というほどの、無欲の勝利。「純粋に将棋を楽しもうという気持ちと、システムエンジニアとして日々培ってきた分析・判断・決断実行の力が、うまくかみあった結果だと思います。」

相手とのせめぎ合いの中で、好みの指し手で自分らしい盤面を作り上げていく過程を楽しむ。これが山田さん流。「初心の頃は、腕を上げれば勝つための最善の道筋を見通せるのだらうと思っていましたが、それは逆で、突き詰めるほどに様々な道が見えてくるようになりました。相手と自分の読み筋の組み合わせを瞬時にシミュレートして、一つに絞る。ロジカルな面でも、対戦心理の面でも、将棋の奥深さは底知れません。」

かつて高校竜王位に就いた時、プロを目指すかどうか迷ったが、結局、将棋は趣味と決めた。勝負に徹するよりも、強くなる過程での醍醐味を仲間と分かち合うことに喜びを感じる自身の胸中に気付いていたからだ。

そんな山田さんは、現在所属するリコー将棋部の主将を務め、“どんなレベルのメンバーにも満足してもらえるような運営の工夫を”と心がけている。「立命館の将棋研究会は全国大会常連の強豪に育ち、リコー将棋部では職域団体対抗戦S級で10大会ぶりに優勝できました。仲間の喜ぶ顔を見るのが本当に嬉しいんです。でも、もし学生時代に全国レベルのタイトルを獲れていたなら、今はもう将棋から離れていたかもしれないと思うんですよ」。柔和な笑顔の奥で、真の勝利を求める気持ちが静かに時機を待っていたのだ。

アマ名人は、来る2、3月に開催されるプロの「棋王戦」予選に出場する。「一局に没頭できる、至福の一日になるでしょう。プロを相手に後悔のない対局がしたいです」。「勝負師山田」の強さを、ぜひ再び見せてほしい。

(写真・小幡 豊 文・寺田直子)

Ritsumeikan University Alumni Association, JANUARY 2007 No.227

CONTENTS

立命館 新たな船出

Rits

川口清史

KAWAGUCHI Kiyofumi



長田豊臣前総長が2期8年間にわたる任期を満了され、
2007年1月1日、川口清史政策科学部教授が立命館総長・立命館大学長に就任されました。
ますます高度化・多様化する、社会からの期待や要望に応えるため、
川口新総長のもと、立命館はいっそうの改革にチャレンジします。
そのキーワードは「社会との更なる連携強化」、
そして、それに基づく「立命館独自モデルの構築と発信」です。
川口新総長と山中諄校友会会長が、新総長の所信や抱負をふまえ、
学園と校友会の連携の理想像を語り合いました。

川口新総長体制スタート

「校友が誇れる立命館を」の
一念で

山中 ◆ 川口先生、この度はおめでとう
ございます。総長ご就任で、我々校友
ともいっそう縁を深めていただけるも
のと嬉しく思っています。先生は立命
館が取り組んできた改革の要素所
で活躍してられたと伺っています。

川口 ◆ 大役を仰せつかりました。どう
ぞよろしくお願いいたします。私が立
命館にまいりましたのは一九七六年で
すから、早いもので三十年以上が経ち
ました。

私は一九八〇年代の第三次長期計
画から立命館の長期計画の策定に係
わっておりまして。八六年には国際化
に関する初の協定相手であったピッツ
バーグ大学へ、在外研究者の第二号と
して赴きました。ピッツバーグは鉄鋼業が
盛んなところですが、一時期衰退し、そ
こから急速に復興した街なのです。そ
の過程で市民と連携し大きな役割を
果たしていた大学の姿は、私の理想の
大学像の形成に大きな影響を与えて
います。アメリカンフットボール観戦の
魅力を教えてくださいましたのも、ここピッツ
バーグでした。

帰国してすぐの八八年に、調査・広
報室長を拝命しました。第四次長期
計画の策定がその時の大きな仕事でし
たが、当時の校友の皆様との関係の中
で二つ印象的だったことがあります。立
命館出身であることを誇る事ができ
ないような雰囲気、まだわずかなが
ら残っていると聞いたのです。我々立命
館の内部では、七〇、八〇年代を通じ
て相当改革を行ってきたつもりでした

校友は立命館と社会を結ぶ 最高のパートナー

川口新総長・
山中校友会長対談



立命館大学校友会会長

山中 諄 (やまなか まこと)

南海電気鉄道株式会社取締役社長。
1943年三重県生まれ。65年本学経済学部卒業。
同年4月、南海電気鉄道(株)入社。95年取締役
鉄道事業本部次長、97年常務取締役バス営業本
部長、2001年から現職。04年(社)関西経済同友
会幹事。なお、02年より(学)立命館理事を務める。
学生時代には体育会自転車競技部のマネージャー
として関西学連を設立、委員長を務めるなど活躍。

のでショックを覚えたとともに、「校友
が誇れるような立命館を作らなけれ
ばならない」と、痛切に感じました。こ
のことは様々な改革プランを練るにあ
たって、大いに発奮材料になりました。
山中 ◆ 先生はびわこ・くさつキャンパス
(BKC)の開設にもご尽力なさった
そうですね。

川口 ◆ はい。あれは大プロジェクトでし
た。立命館の将来のために、まず理工
学部の大大学院を含む抜本的拡充を図
り、名実ともに総合大学にしたい。そ
して産官学地域連携によって、単なる
キャンパス拡張以上の意味と未来への
可能性をもたせたい。こうしたビジョン
を盛り込むことによって、BKC開設
は九十年代の立命館の教育・研究の
転換点になったと思っています。これを
契機として、九八年には経済・経営両
学部が移転され、文理融合教学が展
開されました。皆さんの頑張りのおか
げで、計画以上の成功をおさめること
ができ、BKCは地域と大学との新し
い連携モデルを日本で初めて実践でき
た事業になったと考えています。

一方、衣笠の社系の活性化も必要だ
と考え、政策科学部の新設を提起し、

設置の事務局長を務めました。

それからもう二つの印象的な仕事は、
九年に始めたカナダのブリティッシュ・
コロンビア大学(UBC)とのジョイント
プログラムの計画・実施です。バンクー
バーへ何度も出向き、重要な交渉を重
ねまして、失神せんばかりに緊張しま
した(笑)。このプログラムを軌道に乗
せ、教学部長、政策科学部長、そして
今回の就任へと至りました。学部長と
して各地の校友会総会に寄せていただ
いた際には、皆様に大いに歓迎してい
ただき、ありがとうございました。

山中 ◆ ご専門は非営利組織論という
ことですね。

川口 ◆ もともとは、社会統計学をやっ
ていたのですが、ピッツバーグでの経験な
どから、関心がだんだん移ってきました
のでね。行政と産業界を結ぶ、地域の
活性化の担い手として、非営利組織の
活躍の場が広がっています。非営利組
織としての大学のあり方に対する私の
考え方も、専門と大きく関係していま
す。こうした研究の成果や、研究の過
程で培った国内外の人脈や経験を総
長としての今後にかاشしていきたいと考
えています。



立命館総長・立命館大学長

川口 清史 (かわぐち きよふみ)

1945年中国・長春市生まれ。74年京都大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学博士(京都大学)。76年本学産業社会学部助教授。87年教授。88年調査・広報室長。94年新設された政策科学部へ移り、2000年教学部長、04年学部長・研究科長。07年1月1日より立命館総長・立命館大学長。専門は経済社会システム・非営利組織論。趣味はアメリカンフットボール観戦とクラシック音楽鑑賞。

校友の活躍が

立命館への評価を高める

山中 ◆ いやあ、立命館を現在ある姿に導くためにずいぶんとお骨折りを下さっていたことが改めてよくわかりました。とても良い方が総長になって下さると喜んでいきます。先生は立命館のご卒業ではないですけども、それを超越した、立命館への熱い思いを感じます。先生の情熱に我々としても大いに期待いたします。

川口 ◆ ありがとうございます。ところで会長、実は私は、各地の校友会にお邪魔して挨拶するときに、「大学に対する評価は、卒業生がどれだけ活躍しているかによって示されます」と申し上げるんですよ。その場の皆さんから「プレッシャーをかけられた」と言われますがね(笑)。大学の使命は人材養成ですからね。卒業生が社会に出てどのように活躍しているか。山中会長のような方をどれだけ出せたか。それが結局、立命館への評価につながるわけです。ですから私たちは、皆さんのご在学当時に皆さんに対してどれだけのごことができたかを常に自問する、その姿

勢は忘れてはならないと思っています。

山中 ◆ 立命館は、我々が現役の頃よりはるかに良い大学になっています。今では皆さんが立命館を出たと胸を張っています。社会からの評価、信頼を勝ち取るためには、大学が責務を果たすことはもちろんですが、おっしゃる通り、校友の責任も重大です。幸い、能力の面でも人格的にも非常に立派な校友の方がどんどん頭角を表してこられ、企業のトップ層や、それに続く中堅どころで頑張っておいでです。ここしばらくすれば、もっと多くの方が中核を担われるでしょう。そういった方のある方が増えたのは、立命館が一生懸命教育して下さったおかげです。校友の側も、母校の取り組みを積極的にサポートしていかねばならないと改めて思います。

危機感を共有し

新しい改革モデルの発信を

山中 ◆ さて、先生、今後の立命館学園の運営をどのようになさるのかをお尋ねしますが、まず、現状のご認識はいかなるものでしょうか。

川口 ◆ そうですね。例えば過日発表されました司法試験結果は立命館の現状を反映していると私は思います。新司法試験(法科大学院修了生対象と旧司法試験の合格者は合計三十三名で、実数では過去最多。これは一つの到達点です。一方で新司法試験の合格率の点では課題が残りました。これに象徴されるあと二歩の部分をいかに高めていくかが課題です。

立命館は、いわば日本の大学改革の先陣をきつてきましたが、近年多くの大学が魅力ある大学づくりを意識して改革に鎗を削っています。我々はこれまでの成功にあぐらをかいていた部分があったかもしれない。あるいは自分たちの努力に自己満足していたのかもしれない。危機感を共有し、大胆で新しい発想と、よりいっそうの努力をもって臨まなければならない段階だと思います。

山中 ◆ あの合格率は、意外にも低かったですね。母校立命館の成長発展を喜びつつも、競争的な環境の中で今後の立命館はどうなるのかと心配している校友は多いです。立命館がいま最も重視すべきは、学生一人ひとりに対して質の高い教育をし、研究の質も向上させることです。このあたりの舵取りは、くれぐれもよろしく願います。

川口 ◆ ご指摘の通りです。我々も肝に銘じます。加えて私は、社会の新しいニーズに対応した改革を継続していくには、外部の力を引き込むことも必要だと思っています。二〇〇七年開設の映像学部でも、山田洋次監督をはじめとする社会のお力を借りるわけで

ですね。続く二〇〇八年の生命科学部、薬学部開設においても同様です。教育・研究の面でも、スポーツなどの課外活動の面においても、産官学地域連携や外国の力との連携も含めて、協力し合う仕組みをいかに構築していくかが重要なのです。

これまでの取り組みの成果と反省を踏まえて斬新な改革を進め、立命館を、従来の大学の概念を打ち破るような新たなステージへと飛躍させたい、そして、新しい大学のあり方を内外に発信したいと考えています。

社会との

ネットワーク・コアたる

立命館に

山中 ◆ すると、ただいまの学外とのネットワーク構築のお話も含めて、先生が理想とされる新しい立命館像とはどんなものでしょうか。

川口 ◆ 立命館を「教育・研究のネットワーク・コア(中核)」にしたいのです。一緒に働くのですから、コラボレーション、パートナーシップと言ってもよいでしょう。そして、そのネットワークをオーガナイズできなければならないと思います。つまり、社会に存在する力と、立命館が持っている力をいかにつなげ、どのような価値を生み出したいのか、絵を描く力が要するということです。そのためには立命館が主体的力量をさらに高めなければいけません。我々の力が強くなればなるほど、その協働に多くの力を投入していろいろな

仕事ができます。

私は、学生の成長の場は社会のなかにこそあると考えています。学生の留学やインターンシップ、フィールドワークやボランティア等々、社会のお力を借りるべき分野はいくらでもありますし、国際的な連携も重要であることは申し上げるまでもありません。もちろん、産学連携においても同様です。産学連携は、大学の研究に社会のニーズや社会で果たす意義を改めて問い直し、本学の研究を著しく活性化させました。その協働の大きな相手となる、あるいは協働相手を探す手助けをしていただけたのが校友会なのではないかと期待しています。

山中 ◆校友会としても大いに望むところです。欲を言えば、いま先生がおっしゃった「立命館がもつ力」の内容や、協働への熱意が、外部にもっと分かりやすく伝わるとなお良いと思いますね。

立命館オリジナリティーの追求

― 大学院強化・国際連携・

初等中等教育現場の活用

山中 ◆立命館ならではの仕組みとしてはどんなことをお考えでしょうか。学生の教育に直結した部分ではないかができますか。

川口 ◆そうですね。まずは教育のあり方を大学院を中心に据えてとらえ直したいと思っています。大学院を質的・量的に強めることは、研究だけでなく、学部教育においても不可欠です。一般の研究所ではない、大学における研究

活動の特徴は、大学院生の存在にあります。研究と学部教育をつなぐコア

の役割を院生が果たすのですね。院生が、研究をしながら学部生の教育にも参加する。昔、剣術を師範代が教えていたのと同じです。将来、大学教員などを目指す若手研究者の教育経験の基盤をつくり、教育的資質を涵養された教員が将来、学生を教えるという良い循環が生じることが期待できます。学部生サイドの利点は、教員よりも身近で問題意識を共有しやすい院生から日常的にケアを受けられる点ですね。現在、教育現場においては、より丁寧で手厚いサポートが必要とされていますので、レベルの高い院生の力の活用によって、学部教育の質を飛躍的に向上させることが期待できます。一方、研究の高度化を目指す上では、いくつかの学問分野の研究者による複合型プロジェクト研究が不可欠であり、これを支える体制強化のためにも院生のいっそうの鍛錬が必要なのです。院生にとっても、プロジェクト研究への参加は、研究者生活をスタートするにあたって非常に重要なことであると考えています。優秀な院生の確保は大変ですが、方向性としては揺ぎないところだと思います。

山中 ◆近年力を入れていらっしゃる国際交流・連携の分野はいかがですか。

川口 ◆国際連携は、交換留学等のプログラムや、中国の大学管理運営幹部研修に代表される人材育成事業などで大いに成果を生んでいます。立命館アジア太平洋大学を舞台に展開されている、学生が主役の国際連携も、さら

に活発になされることを望みます。

山中 ◆総合学園立命館の総長として、初等中等教育についてはいかがですか。我々校友会も、附属校同窓会協議会を結成して、オールリッツの結束を一段と強めようとしています。

川口 ◆附属中学校・高等学校は、来る四月をもつてそれぞれ四校となります。立命館小学校も、おかげさまで高い評価を得ています。このように総



合学園としての機能を強化する背景には、様々な問題を抱える日本の教育現場を打破する新しい教育実践モデルを構築したいという願いがあります。初等・中等教育の現場で、新しく質の高い実践をし、それを生徒たちの進学先である大学・大学院にも波及させたいと思います。優れた生徒たちを受け入れるべく大学も進化するのは当然の責務です。

ALL-RITSネットワークの発展のために



立命館附属校同窓会協議会会長
清和会（立命館中・高同窓会）会長
布垣 豊（61歳）

私は、二〇〇六年七月に清和会会長に任ぜられました。母校の更なる発展と校友の結集のために尽力する所存です。

また、同じく昨年夏に発足した立命館附属校同窓会協議会の会長も拝命いたしました。川口新総長のもとで引き続き改革の道を邁進する立命館学園の二支援母体の長として、身の引き締まる思いです。

立命館大学の附属校は、現在立命館中・高、立命館宇治中・高、立命館慶祥中・高、立命館守山高、そして立命館小学校の八校で、今年二〇〇七年四月には立命館守山中学校が開校いたします。これらの附属校が、立命館学園の初等・中等教育の創造的発展を必ず成し遂げ、ひいては大学の教育の変革を促して、立命館の一貫教育の質を更に高めることを確信しております。

私たち附属各校同窓会は、お互いの歴史を尊重しつつも結束し、母校と後輩を支えながら、ALL-RITSネットワークの発展に積極的役割を果たしたいと願っております。

校友会と学園は車の両輪

山中◆いろいろとお話を伺い、先生の確固たるご意思を感じて頼もしく思います。改革の過程は山あり谷ありですが、しかしその手を緩めると、停滞、場合によっては学園が衰退してしまう。他の大学との競争もますます激しくなるでしょうが、ぜひ立命館らしい改革をやり遂げていただきたいし、校友会としてもそれを全面的にバックアップしたいと思っています。車の両輪ですからね、大学と校友会は。

川口◆立命館のいいところは、学生・生徒の「元氣さ」にあると思っています。社会に出て力をつける、活発な課外活動で力をつける、チャンスを生かして何事にもチャレンジする、といった学びの場を大事にしていきたいです。またもうひとつ、立命館の特長は、学生同士の学びあいや、先輩が後輩を親身になってサポートする文化だと思います。オ



ほか少なくなりますからね。なるべく多くの校友が母校で学び直せるように、サテライト教室のような場をもっと設けていただけると助かります。我々校友の側も、母校に対して知的な面でもっと貪欲になつてもいいのではないかと思います。母校を身近に感じてもらうために校友会をうまく機能させ、先生がおつしやるネットワーク構築の強力なパートナーになれるよう、我々も心してあたりたいと思います。

逆に私からは、教職員の皆さんには教職員校友として我々と一体となつて学園作りに取り組んで下さるようをお願いいたします。

まあ、硬いことばかりでもなんですから、先生のお好きなアメリカンフットボール観戦にも、二度ご一緒できればと思います(笑)。

川口◆それはいい。私は極力競技場に足を運ぶようにしていますが、どうしても行けない時にはビデオを送つてもうほどこきなんです。

山中◆試合中に、「もつこうすればいいの」とお思いになることはありませんか？

川口◆あります、あります。アメリカにはマンデーコーチという言葉がありまして、私もそれです。日曜日に試合を見たファンが、月曜日に顔を合わせて「あそこがああだった、こうだった」とね(笑)。スタンドでは大きな声を出しますから、皆さんにもすぐにお分かりになるでしょう。その際はよろしくお願いします。

山中◆今後も一緒に頑張りましょう。ありがとうございました。

国際的ネットワークを活用し ALL-RITSを支えたい



立命館アジア太平洋大学
校友会会長
竹本慎也(03APM)

「AL」の強固なネットワークに支えていただきながら、APUは約二千名の校友を輩出するまでにになり、確実に歴史を刻み始めています。APU校友ネットワークの強化を目的とするのみならず、在校生との繋がり大切に、また立命館学園、そして学園各校の校友会・同窓会とも繋がることのできるハブ的な存在——それがAPU校友会です。

川口新総長のご就任を機に、立命館学園はいっその飛躍に向けてダイナミックな動きを加速させることでしよう。我々APU校友会は、強みである国際色の豊かさを活かして、立命館大学校友の皆様や附属各校卒業生の皆様とともに、立命館学園との協働を目指します。

APU校友会は、学園全体の国際的な校友ネットワーク活性化の一翼を担いつつ、立命館に新しい価値をもたらす貢献できる存在となるよう、ALL-RITSの「員」として力強く歩んでまいります。

川口新総長のもとでの主な事業

川口清史新総長の任期のうち、当面の2年間に実施が予定されている主な事業をご紹介します。

映像学部設置 (二〇〇七年度)

二〇〇七年度、京都・衣笠キャンパスに、映画、ゲーム、Webといった映像コンテンツを総合的にプロデュースできる人材の育成を目的とした映像学部を設置します(二学年の定員は百五十名。四学年で六百名)。

歴史文化都市である京都に発祥の地がある本学は、アート・リサーチセンターの文理融合型の映像関連研究、文部科学省21世紀COEプログラムに採択された「京都アート・エンタテインメント創成研究」・「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」等、京都研究に実績があります。このような実績をもとに映像学部は設置されます。

そして、学生が将来の進路目標に応じた専門領域を修得できるように、「映像文化」、「映像制作」、「映像プロデュース」および「映像テクノロジー」という四つの学びのフィールドを設計します。

映像学部では、人材育成を社会とのコラボレーションによって実現します。映画界、ゲーム業界およびテレビ制作の現場等で多様な実績を残してきた方々、例えば映画界からは山田洋次監督、ゲーム業界からはファミコン開発を手がけた上村雅之氏といった方々に教育に参加していただき

ます。また、松竹(株)・松竹京都映画(株)・(株)任天堂、そして(株)如月社(京都シネマ)等とも連携。松竹(株)・松竹京都映



●映像学部棟完成予想図

画(株)とは教育プログラムの開発等を行い、(株)任天堂からはゲーム機「ニンテンドーDS」等のゲームソフト開発機材を導入し、学生の演習や研究に活用します。(株)如月社(京都シネマ)には、映画館でのインターシネップなどにご協力いただきます。

公務研究科(公共政策大学院)の設置 (二〇〇七年度)

グローバル化、情報化、少子高齢化、産業構造の変化等社会が劇的に変化の中で、生じてくる課題を解決できる「政策力」ある人材育成を行うために、公務研究科(公共政策大学院)を二〇〇七年度に設置します。

場所はJR二条駅前の朱雀

キャンパス。定員は六十名。社会人も対象にするため、昼夜開講・土曜日開講とします。

教育の特徴は、分野が異なる複数の教員でゼミを担当し、大学院学生が発表した政策構想を多面的に議論して練り上げる「リサーチ・プロジェクト」。各大学院学生が具体的な政策課題について討論を繰り返しながら、解決策を作成します。

また、実社会で役立つ教育を行うために、人事院等で活躍されていた実務家教員も授業を担当。実践的なトレーニングを重視します。

修了生の進路は国家公務員を中心に、シンクタンクやNPO(民間非営利団体)なども想定しています。



●朱雀キャンパス



立命館守山中学校の開校 (二〇〇七年度)



二〇〇七年度開校の立命館守山中学校では、大学の講義や、びわこ・くさつキャンパス(BKC)高大連携講座など、学園内の知的資源・ネットワークを最大限に活用した教育を行うことにより、高い科学的素養やコミュニケーション能力、道徳意識を身につけた、国際舞台で活躍できる人材を育成します。

立命館守山高等学校は二〇〇六年四月の開校と同時に、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に採択されました。この優位性を生かして、立命館守山中学校でも「サイエンス工房」の開校や、「総合学習」での観察・実習・実験・発見を通したもののづくり教育の充実、立命館大学の院生・大学生によるアカデミックアドバイザー制度や教育支援制度の導入、地域や企業関係者のネット



ワークによるAD/PEP(達人)先生の活用などを準備しています。

なお、中学・高校「貫教育プログラム」の中に、高等学校段階から「医歯薬」系の学部進学を支援するプログラムが設定されます。

定員は「学年百六十名(四クラス)です。

生命科学部・薬学部の設置(二〇〇八年度)

二〇〇八年度、びわこ・くさつキャンパス(BKC)に「生命科学部」および「薬学部」を設置します(学部・学科名称はいずれも仮称)。

「二十世紀は生命科学の世紀」といわれるなかで、生命科学

(ライフサイエンス)を基盤とした科学技術が社会や生活に深く浸透することが予想されており、生命科学に関する教育研究が果たす役割に大きな期待が寄せられています。

「生命科学部」および「薬学部」の設置は、このような社会的・学問的な期待に積極的に対応するとともに、立命館学園全体の教育研究を世界水準にまで引き上げることを目的としています。

生命科学部(四年制)は、生命医科学科(学年定員六十名)、応用化学科(八十名)、生物工学科(八十名)、生命情報学科(六十名)の四学科で構成し、定員二百八十名(四学年で千百二十名)。薬学部(六年制)は定員百名(六学年で六百名)で構成します。

特徴は、社会とのコラボレーションによる教育システムです。例えば他大学医学部との連携を視野に入れた教育・研究活動。すでに滋賀医科大学と「健康創造科学研究会」を発足させ、研究コンソーシアムでの活動を開始しています。また、企業、研究機関、医療機関と連携した教育研究活動も展開。大学院教育との連携も強化し、五年間で修士号が取得できる「ファスト・トラック制」の導入を検討しています。薬学部は六年制のため、四年制の博士課程を構想しています。

立命館アジア太平洋大学(APU)大学院の新展開(二〇〇七年度)

立命館アジア太平洋大学大学院アジア太平洋研究科の博士前期課程には、アジア太平洋専攻コースと国際協力政策専攻コースが設置されていますが、二〇〇七年度秋季から、新しくアジア太平洋専攻コースに現代日本研究(Contemporary Japan Studies)プログラム(アジア太平洋専攻コースで学年定員十五名)、国際協力政策専攻コースに健康マネジメント(Public Health Management)プログラム(学年定員十五名)がスタートすることになりました。



現代日本研究プログラムは、現代の日本に興味・関心を持ち、日本国外で既に外国語(英語)による日本研究に従事している方や、これから従事しようとしている方々を念頭に置いたものです。アジア太平洋地域が抱える諸課題の中、今日の日本、日本とアジア太平洋地域を中心とした諸外

国との関係の中での日本についての研究を行います。また、第二セメスターは、立命館大学文学研究科との連携によって、京都で学ぶプログラムとし、立命館大学での講義と京都でのフィールドリサーチを組み込んだものとします。なお、本プログラムは英語で開講し、日本語の能力アップを希望される方々には、別途日本語に関するカリキュラム等を提供します。

健康マネジメントプログラムは、発展途上国において既に医療・保健にかかる業務や政策運営に携わっている方々や、これから携わろうとする方々を念頭に置き、健康マネジメントに関する調査、政策などに関する深い理解を目指すものです。このプログラムは、健康政策(Health Policy)、健康管理(Health Administration)、健康教育および社会(Health Education & Community)の三つをモジュールとし、各モジュールを基本とした健康マネジメントに関する最新の諸科目の講義やフィールドワークの提供を予定しています。このプログラムは、学部で二〇〇六年度に設置した「健康・環境・生命インスティテュート」における大学院教育展開にもかわるものです。このインスティテュートに所属する学生は、本研究科のプログラムの関連科目を履修することができます。

原

宏亮

さん(65法)

燃え尽きてはいない

二〇〇七年、「団塊の世代」と呼ばれる人たちの定年退職が始まる。俗に「二〇〇七年問題」と言われている大勢のベテランの退職が、労働市場に大きな影響を与えることは避けられない。定年延長・再雇用等によって、蓄積された知識・技能の流失を食い止めるようとする企業があり、またこの機に乗じて、バイタリティー豊かな即戦力のシニアを獲得しようという動きもある。

原さん自身は、「プレ団塊」よりもさらに数年前の生まれであるものの、心情は同じ。

オフィス機器・情報機器等の製造・販売大手、(株)内田洋行の役員まで務め、サラリーマンとして上々の道を歩んできたが、「まだこれからだ」との気概をもって、人材紹介派遣会社「ダンネット」を起こした。団塊世代の「ダン」、断トツ人材の「ダン」、ネットワークの「ネット」が由来である。

原 内田洋行から関連会社ウチダエスコに移り、そこで社長、会長を務め、二〇〇五年の夏に私のサラリーマン生活は終わりました。顧問もしくは相談役というお話も数社からいただきましたが、「私の人生、まだ燃

え尽きていない。」という気持ちのほうが強かったです。

ウチダエスコに、六十歳を過ぎた内田洋行の営業畑のOBを何人が採用して働いてもらったか、これがなかなかやるんです。人材と企業をうまく結びつける

ことができれば、シニアもまだまだ働ける。それを支援しつつ私自身も新しいステージで頑張りたいと考えて起業しました。エスコの社長時代に自社関連の人材派遣会社の設立・経営を経験していますね。実は、若い頃に、自分で事業をやりたいと思うことが何回かありました。けれども当時はそれに踏み切る勇気がなかった。業種こそ違いますが、いま実現できたわけです。

シニアは強し

原さんは香川県生まれの十人きょうだい。家族の間ですら競争が生まれ、知らず知らずのうちに根源的な生きる力が鍛えられていったという。そんな原さんの青年時代は、そしてシニア世代の強さの源はどこにあるのか。

TSUMEI I NTERVIEW

シニア仲間よ、ともに頑張ろう

R I

原 学生時代は生活費を稼がなければならず、「二週間はアルバイトで来られないから、授業の代返は頼んだぞー」ということもあり、繊維工場で徹夜仕事もしました。これは結構きつかったのですが、社会に出てからのことを思えば、まだまだ甘いものでしたなあ（笑）。

内田洋行に入ると、思いがけず東京勤務になりました。同じ課に新入社員が七人。東京六大学の出身者が五人で、関西からは私ともう一人。いきなり飛び込み営業に放り出されました。「地の利も人脈もある東京の連中には絶対に負けない」と思いましたね。彼らが三十軒回るなら僕は四十軒…、とやっていたら、営業成績が上がっていったんです、トップに。名刺の印刷は一度に二千枚が普通でした。「三百枚」と注文したら、上司に「桁が違うだろう!」と叱られました。靴は半年、背広もワンシーズンで擦り切れてしまう体力勝負。時には訪問先で塩をまかれるような辛いこともありました。その後、年月を重ねて責任の重い立場になると、心を鬼にして決断せねばならない場面も度々あり、それはまた苦しいものでしたが…。

私より少し若い団塊の世代の人たちも、似たような経験をしているはずです。大変な競争をかくくつてきたわけですよ。それに、私の世代ほどではないと思いますが、飢餓の時代を、つまり我慢することを知っている。仕事についても、定年まで勤め上げようという気構えをもっていたはずで、これは非常にいいことなんです。今の若い人にはない資質を備えているのですから、活かさない手はありません。

差別化戦略 ―管理職・外国人ホワイトカラー・ 付加価値プラス

いま人材の紹介・派遣は、労働市場になくしてはならないものになった。多くの会社がひしめき合う中で、「ダンネット」が存在価値を高めるために原さんが考えていることは。

原 終身雇用制度は崩れ、転職をする人、リストラをどうしてもやらざるを得ない企業、いずれもなくなりはしません。ですから、この業界は拡大していくでしょう。私がかもっている使命感の第1は、健康で能力もやる気もあるシニア、特に管理職経験者の方に活躍していただける場をもっと開拓することです。派遣労働をいわゆる格差と結びつける向きもありますが、シニア層にとつてはそれはさほど問題ではなく、経験を活かして働きたいという希望をかなえることが重要なのです。

次に、外国人若手ホワイトカラーの紹介・派遣を軌道に乗せたいと考えています。日本の少子高齢化は急速に進んでいて、中小企業、それも理工系の人材を必要とする企業の中には、大学を出た若い社員を採用できずに困っており、ところがたくさんあります。日本の成長を支えてきたものづくりが危機に瀕しているのです。二時的にはシニアの活用でしのげるかもしれませんが、私は将来的には、若い大卒の外国人ホワイトカラーを受け入れる方向にシフトしていくと思っています。実際に、中国はじめアジア各地で

卒の若者と会いますと、日本のことをよく知っていますね、「日本で最先端の技術を勉強したい」と異口同音に言います。あるいは本音は別なところにもあるのかもしれません。二十年後、三十年後の日本には彼らのような外国人が必要だと思いませんか。

もうひとつ、新聞で取り上げられて反響を呼んだ事業がある。これも主に管理職経験者のシニアを対象にしたものだが、高齢化社会を支える介護施設の管理職養成塾「介援隊」を立ち上げるというのだ。

原 私が自分で直接行う事業ではありませんが、顧問として力を入れていまして、この三月から塾生募集を始めます。介護施設のプランナー、コンサルタントをしている方と知り合っていますね。この方が塾長です。介護保険制度がスタートした後、介護の世界には他業種からの参入が相次いでいますが、経営面だけでなく専門職のコーディネートなど人的なことも含めたマネジメントの方法論がなかなか確立せず、試行錯誤が続いているそうです。施設には介護支援専門員や理学療法士などの専門家はいますが、複雑な法律全般を理解し、経営管理、労務人事管理といったトータルマネジメントができる人材はなかなか見つからない。ここは管理職を経験したシニアの出番ではないか、新たに介護・医療・福祉の実践的な知識を身につけてもらえば、即戦力になれると、こういうことですね。介護施設に、かつてのビジネス現場での厳しい



Hirosuke Hara



原 宏亮さん

- 1940年 香川県に生まれる
- 1959年 観音寺第一高等学校卒業
- 1965年 立命館大学法学部卒業
(株) 内田洋行入社
- 1983年 事務機器事業部札幌営業部長
- 1989年 取締役事務機器事業部副事業部長
- 1995年 常務取締役 西日本担当
- 1998年 ウチダエスコ(株)代表取締役社長
- 2003年 取締役会長
- 2005年 同社退社
(株) ダンネット創業 現在に至る

【趣味】

現在は、ウォーキング、ゴルフ。

かつては朝6時に起床し、40分かけて3〜4キロのジョギングをすることを毎日の日課としていた。「身体が資本」と実感している。

陶磁器鑑賞も、かれこれ30年にもなる趣味。九谷焼に始まり、現在では備前・信楽・益子といった類を好む。

【校友会活動】

千葉県校友会副会長

多忙な中でも、県校友会のさまざまな行事への出席率は7割程度と、自他共に認める校友会好き。

 <http://www.dannet.jp/>

▼千葉県校友会の皆さんと



まだまだ輝くために

経営論理を持ち込むのではなく、その世界にふさわしい考え方や方法論を体得していただく。塾を修了した方々には、私の会社に入社登録をしていただき、施設からの求人に応じられるようにします。

高度な付加価値をプラスしてから人材を紹介・派遣するというのが、これからもっと盛んに行われるでしょう。私もいろいろな可能性を考えていますよ。

引き続き、社会で頑張ろうと意欲をお持ちの読者も多いことだろう。原さんからの親身なアドバイスをぜひ役立ててほしい。

原 この仕事を始めて、皆さんが再就職を案外気楽に考えていることに驚きました。これまで苦労してきたんだからと、週に三日だけとか、十時から四時までとか、こういう希望をする人がいる。しかし楽な仕事はありません。フルタイムで、戦力として頑張るんだという気概を持たなければだめです。まだまだ

若い人に負けないパワーがあるぞと、自信を持って下さい。それから、申すまでもなく、健康第一です。

自分の専門領域にかかわるスキルを落とさないように努力するのは当然ですが、これだけ世の中の変化が速く、コンピュータなどの情報通信機器もあれこれと新しいものが出てきますと、ついつい不安になることもあるでしょう。でも、広く浅くいいですから情報収集をして、流れについていくことです。それで自信も保てます。

現役時代にしかるべき立場にあった方々にとって案外難しいのが、自分の能力を客観的に見極めることです。それに、自信過剰はいけません。採用面接で「わが社の現状はこうですが、あなたが来られたらどのように仕事を進めていただけますか」と問われて、「貴社のこの点はまずいですね。私ならばこうやりますな」と、現役の部長さんを目の前にして言うてしまったら、どうなるでしょう。自分の経験と比較して、「この会社はいいたい何をやっているんだ」という態度に出るのは決して良い結果を生みません。初めは謙虚に。能

ある鷹は爪を隠す。力は徐々に出していけばいいんですよ。

運・鈍・根

原さんは、さまざまな巡り合い「運」の不思議をあらためて噛みしめて日々を過ごしているという。

原 立命館の法学部に入ったものの、実は元々理系志望でもあり、もう一度受験をしようかと考えたこともありました。すると同じ下宿の隣人が、大谷大学に通っていたお坊さんだったのですが、「合格して、入学もしたのだから、立命館での生活を全うするのがいい」と説教してくれましたね。おかげでいい人生になりました笑。

末川博総長は、いつも未来に希望をもって生きよと事あるごとに励ましてくださいましたし、私は何より先生の「人生は運・鈍・根が大切である」のお言葉を忘れずに生きてきたのがよかったと思っています。

窓の師恩

恩師の近況や人となり、思い出を、教え子が紹介します。



小林 龍馬

名誉教授（経営学部）

- しばやし りゅうま
- 1975年～1996年
- 証券論・金融論

先生からの一言

ゼミ生は毎年30名満杯であった。英文のテキストで教えた学生たちは、海外出張をこなす社会人に育った。就職委員として世話をした学生や硬式野球部員の顔も次々と浮かぶ。皆、頑張れ！

「えーっ、金融論の小林です。」

小柄な体躯に大きな目、独特の節回しと、よく通る濁声。経営学部の名物教授、小林龍馬先生との出会いでした。

「ぶあつかもん！」

公定歩合、公開市場操作、売りオ、買いオ、ペ、スタグフレーション。当時、先生の授業は難しくゼミ生たちは様に、ううつと辛吟。半ば強引に、周山の山奥で全員軟禁された「原書購読」合宿。半泣きで英文と格闘し、フラフラの我々をささつと常照皇寺へ「九重桜」御車返し「桜」を見せに連れて行く、この小粋さ。「鬼」と「風流」をさり気なく使い分ける先生でありました。

「気合を入れんか！」

先生のもう一つの顔は、立命館大学硬式野球部、鬼部長。小さな体全体から迸る情熱で選手をドヤしつける名ゼリフ。先生の薫陶を受け、飛躍した選手はヤクルト古田敦也監督、元大リーガー長谷川滋利投手など、枚挙に遑ありません。

「ワシの弟子や！」

経営学部長時代には、取引先を集めた経済講演会に講師としてお招き（無理矢理）したり、卒業後も交流は延々と続いて…。

そして仲人。披露の宴たけなわ、女房の友人が言葉を尽くして小生を褒めてくれているスピーチの真つ最中。御酒を過ぎ、真つ赤で上機嫌の先生、マイクを握り間髪入れず大声で。

「あつたり前や、ワシの弟子や！」

小生は顔から火、宴は場内爆笑の裡に、大団円となりました。先生いつまでもお元気で、弟子達にあの「小林節」、聴かせて下さい。

教え子

山岡 誠（81経営）記
株式会社銀行 業務渉外室長



須田 稔

名誉教授（産業社会学部）

- すだ みのもる
- 1964年～2001年
- 米黒人の思想と文学

先生からの一言

学部創設いらい勤めて、定年で去った最後の一人。先輩の大半が亡くなられて寂しいが、非戦平和を希求し「美しい人となりの力」（茨木のり子）を創る志の日々。いのちをいとおしんでくださいね。

「どこかに美しい人となりの力はないか
同じ時代をともに生きる
したしさとおかしさと そうして怒りが
鋭い力となつてたちあらわれる」

須田先生というと、私はまずこの茨木のり子さんの詩の一説を思い出します。先生はこの詩を時々引用されますが、先生のお仕事や様々な活動の中に貫かれている姿勢をここに感じることが出来ます。

先生は一九五五年府立鴨沂高校定時制で初めて教壇に立たれ、その生徒達の多くが戦死によって父親を亡くしていたことに大変驚かれ、そのことが以後の生き方を決定づけた、と、先日、先生にお聞きしました。

私達と先生との出会いは一九六八年、有心館という小校舎での英語の授業でした。教材はもう忘れてしまったのですが、先生の美しく力強い英語の響きと、授業を通じて人種差別の問題を熱く語り語られていたことだけは、今でもありありと思い出すことが出来ます。

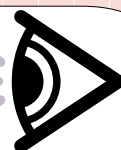
退職されてからも教育研究会等で、先生とよくお会いします。また昨年はOBによる上海・南京の旅にも同行していただき、日中の歴史にも思いを馳せつつ、楽しい三泊四日を共有できたことは、忘れられない思い出になりました。

社会、文化、そして言語に対する先生のよい意味でのこだわりや探求心そして行動力に、私達は今もなお、というより、あるいは在学時代よりもいっそう、学ばされ励まされています。今また平和な生活がじわじわと脅かされている中、先生にはますます健康に留意され「美しい人となりの力」を紡ぐメッセージを、今後とも発言し続けていただきたいと、心から願っています。

教え子

都島由美子（72産社）記
宇治市立宇治小学校 教諭





“飲んだら動かない”自動車



情報理工学部 飯田健夫 教授に聞く
快適性と安全性の向上で追求する
「人間と自動車のより良い関係」

A 車内にアルコール検出機がついていて、乗る前にふつと息を吹き、一定のアルコール濃度基準を超えると、エンジンがかからなくなるという仕組みです。精度が高く、かつ簡易で安価なアルコール検出センサーにより実現可能ですが、しかしこには「種の

具体的には
どのような技術なのでしょうっか

Q

でも如何に自動車の操作に関するヒューマンエラーを軽減するかということは、自動車業界全体のあくなきテーマです。

A 自動車業界が技術的にまずとれる対策ということではないでしょうか。飲酒運転が原因の事故が多発し、世論の厳しい視線が自動車業界に対しても向けられています。自動車メーカーは研究開発に多額の費用と時間を割きます。私も様々な技術開発について情報を得てきましたが、これほど急速な発表にいたった事例は記憶にありません。今回の技術はとりわけ新しいものではありませんが、飲酒運転の防止のためにまずひとつハードルを作るといって意味のあることだと思えます。数多くの人間が直接操作し、かつ操作ミスによる結果が重大な社会的損失を与える最たるものが自動車と言えるでしょう。そういう意味でも如何に自動車の操作に関するヒューマンエラーを軽減するかということは、自動車業界全体のあくなきテーマです。

「飲酒すると動かない自動車」の開発について一部の自動車メーカーから発表がありましたね

Q

A 今、自動車メーカーが開発に力を注いでいる技術の二つに「居眠り防止対策」があります。居眠り運転が自動車事故原因の上位にランクされていますが、まだ有効な手段は開発されていません。理想的な技術は、運転手が眠気を我慢している時や、集中力が低下して「ひやっ」とした瞬間を感じし、自動車が独自に判断してスピードを落としたり、「起きろ」というサインを

ほかにはどんな技術開発が進められていますか

Q

「逃げ」が潜んでいます。例えば私がお酒を飲んでいたとしても、飲んでいない友人が息を吹いた場合にはエンジンがかかってしまうということが考えられます。これを避けるためには、カメラで本人照合をして、運転手が握ったハンドルから心拍数の変化や血流データを抽出し、エンジンをかけてよいかどうかを判断するといった、息を吹かなくてもよい環境をつくり出すことが必要です。以前ある自動車メーカーが、安全ベルトを締めないとブザーを鳴らして注意を喚起する機能を付加しましたが、体の前にベルトをかけることなく接続点をはまっていれば運転することが可能なので、ほとんど効果を発揮しませんでした。ここが人間と車の関係の難しいところなんです。ただ規制を設けて縛ればよいというわけではなく、運転手に対する快適性を保った上で安全性を向上させていかなければなりません。

キーワードから見る

現代



“飲んだら動かない”自動車

情報理工学部 飯田健夫 教授に聞く
快適性と安全性の向上で追求する
「人間と自動車のより良い関係」

飲酒運転による事故が相次ぎ、大きな社会問題となっている。

そんななかで、一部の自動車メーカーが「飲酒をするとエンジンがかからなくなる自動車」の開発を発表した。

少しの操作ミスでも大事故につながりかねない自動車。

しかし私たちの生活を豊かにしていることも事実だ。

今回のキーワードから見る現代では、人間と自動車のより良い共生環境を実現するために進められている

様々な技術開発について、情報理工学部・飯田健夫教授にお話を伺った。

出すというものです。

そのためには、運転手の眠気やストレスなどを察知しないといけないわけですが、それらを検出するためにCCDカメラを使った眼の計測や、心電図の計測による心拍の分析が注目されています。疲れてくると目の動きは鈍くなり、瞬き状態も変化します。様々な眼球特性のデータを取り、眠気やストレスが原因によるものなのか、そうでないかを判断する基準値の設定に力が注がれています。また「ひや」とした瞬間を逃さないための心拍の分析については、脈と脈の間の時間を抽出し、この時間間隔の変動（心拍変動）がいろいろと解析されています。このような生理的データの組み合わせにより、運転手が徐々に眠くなっているとか、とてもリラックスしているといったことを認識していくわけです。めったやたらに警告があっても運転手が不愉快になって逆効果になりますし、人間の生理的な部分と密接に繋がっているこの技術開発は非常に難しいです。

今後の展開について
どのようにお考えですか

Q

A エンジンや燃費などかつて重視された機能よりも、如何に環境にやさしいかとか、騒音がどれくらい遮断されているか、車の中の空気が常に綺麗かどうか、運転手にとつての快適性が満たされているかどうかといった、本来の走りとは関係ない人間

との適合性が重視されています。今後ますます車と人間の共生が進んでいくでしょう。しかしやはり相手は人間。管理するだけでは満足できないんですね。例えば道路にセンサーを埋め込んでおいてその情報に従って車が走る技術的アイデアがあるけれど面白くない。自分のスピードで走りたいですね。以前「車は馬のごとく操作するのが理想ではないか」という言葉を聞いたことがあります。馬は手綱ひとつで右、左、早く、遅くと走る。走りに躍動感があり、風を体で感じる事ができる。それが車の理想ではないかというのです。馬は人が来たらよけまわし、前に馬が走っていてもぶつかるとはありません。落馬しない限り安全です。それくらい動物的で生理的な関係を人間と車の間に生じさせなければならぬ。そのような操作上の魅力と、安全対策をどこまで両立することができるのか、企業の社会的責任といえるでしょう。



いいだ たけお
立命館大学情報理工学部
知能情報学科教授
[専門分野]
人間工学

- 主な著書・論文
- 『自動車運転時における視覚特性と思考負荷』（単著、2003年、人間計測ハンドブック（朝倉書店））
- 『生理指標による適合性評価』（単著、2004年、Human Interface（ヒューマンインタフェース学会））

立命館校友大会2006 アルバム



挨拶する山中校友会長



「源氏の間」にて



APUからの参加者



メンネルコール



国内外から1600名が集結



軽音楽部OB/バンド



藤岡真弓さん



松田美緒さん



小林史佳さん



チンドンー喜

第4回りつめい読者の会 女性校友のつどい

11月25日(土)

東京・高輪プリンスホテルで華やかに開催

校友会広報委員会(尾崎敬則委員長)は、11月25日(土)11時30分より、東京・品川の高輪プリンスホテルにて「第4回りつめい読者の会」を開催しました。今回は初めて会場を京都から移して趣向を新たに女性のつどいとし、20代、30代を中心層とした40名が参加しました。

第1部では、りつめい225号表紙の人、(株)ワコール人間科学研究所の坂里祭さん('85理工)から、「インナーウェアでシェイプアップ!—スタイルサイエンス商品群開発の現場から」と題したお話を伺いました。女性用インナーの開発に科学的手法を駆使して取り組み、「おなかウォーカー」をはじめとする数々のヒット商品を生んできた坂さん。聞き手の村上英子広報委員('78産社)との呼吸もぴたりと、開発思想や商品化に至るまでのエピソードをお話し下さいました。参加者からは、健康的な美しさをつくるメカニズムはもとより、苦労や壁を乗り越えて元気に働き続けてきた坂さんの姿勢そのものにも励まされたとの声が聞かれ、質疑応答も活発に交わされました。



坂里祭さん
('85理工)



村上英子広報委員
('78産社)



第2部のランチタイムは、会場ホテルの総支配人小山正彦氏('79経済)のご厚意が詰まったメニューを堪能しながらの懇親会となりました。ハードな仕事や子育てを精力的にこなしている参加者が、刺激し合い、励まし合い、また校友会や大学からの情報発信に対する意見・要望も積極的に語られました。ほとんどが初対面の人ばかりとは思えない盛会で、閉会後も名刺交換と歓談の輪が長らく続きました。

母校立命館ならびに校友の動向をお伝えする「りつめい」誌に、今後もご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学園祭 プレステージ



立命館小学校児童によるチアリーディング



大勢の観客の中で



応援団吹奏楽部

おだやかな秋晴れとなった11月4日(土)、ホテルグランヴィア京都にて「All Rits 立命館校友大会2006」を開催した。

立命館大学ならびにその附属各校の校友会・同窓会、そして立命館アジア太平洋大学校友会から集った1600名を超える校友を前に、長田豊臣総長・川口清史新総長・川本八郎理事長・山中諄校友会会長が固く手を結び合い、学園と校友が一体となって学園創造に真摯に努力することを誓いあった。盛大な宴は、校友出演者による多彩なステージや福引大会などのイベントを交えて熱気をはらんだまま佳境へと移った。

京都駅前広場で校友大会と同日開催し、こちらも恒例となった「学園祭プレステージ」も多くの観客を集めて湧き立っていた。



応援団チアリーダー部

立命館校友大会2006



パチ・ホリック



福引大会の一コマ

校友会ネットワーク

本年9月中旬～12月上旬に行われた各団体の行事です(判明分)

都道府県校友会ほか

- 9/17 島根県校友会総会 (30名・サンラポーむらくも)
- 10/14 福島県校友会総会 (36名・ラヴィバレー番丁)
- 10/14 Ritsちば校友のつどい (90名・船橋グランドホテル)
- 10/15 兵庫県校友会総会 (150名・ホテル「ホップイン」アミング)
- 10/15 埼玉県校友会総会 (彩の国Rits校友の集い)
(50名・川越東武ホテル)



埼玉県校友会総会

- 10/15 石川県校友会総会
(90名・金沢ニューグランドホテル)
- 10/28 福井県校友会総会
(120名・福井厚生年金会館)
- 10/29 茨城県校友会総会
(32名・三の丸ホテル)
- 11/10 福岡県校友会総会
(200名・西鉄ソラリア)
- 11/10 鳥取県東部校友会総会
(60名・白兔会館)



石川県校友会総会



福井県校友会総会



茨城県校友会総会



鳥取県校友会総会



福岡県校友会総会

- 11/10 和歌山県校友会総会
(90名・ホテルグランヴィア和歌山)



和歌山県校友会総会

- 11/17 鳥取県西部校友会総会 (30名・米子全日空ホテル)
- 11/18 宇部・小野田校友会総会
(29名・堀辺旅館)



広島県東部校友会総会

- 11/23 広島県東部校友会総会
(74名・福山ニューキャッスルホテル)



大分県校友会総会

- 11/23 大分県校友会総会
(70名・ホテル三泉閣)
- 11/25 愛知県校友会イヤーズミーティング
(430名・名鉄グランドホテル)



愛知県校友会イヤーズミーティング

- 11/25 鹿児島県校友会総会
(80名・ニューカゴシマホテル)



鹿児島県校友会総会

- 11/25 佐賀県校友会総会
(43名・ホテルニューオータニ佐賀)

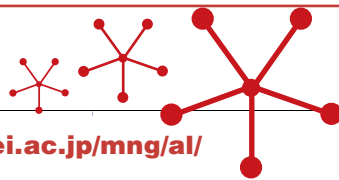
- 12/9 東京校友会総会
(100名・パレスホテル)

地域校友会

- 10/7 北摂校友会総会
(36名・ホテルアイボリー)
- 10/8 兵庫県淡路支部総会 (45名・津名ハイツ)
- 10/29 愛媛県校友会今治支部総会
(20名・レストラン「笹」)



北摂校友会総会



職域校友会

- 10/6 徳岡会発足会 (16名・わいん屋)
- 10/12 Rits不動産ネットワーク第1回例会 (65名・京都タワーホテル)
- 11/10 石川県庁立命会懇親会 (25名・金沢都ホテル)
- 11/22 朋命会 (神戸市立小中高教員の会) 総会・懇親会 (18名・ホテルモントレ神戸)



朋命会総会・懇親会

学部・学科校友会

- 10/21 建設会総会 (100名・京都タワーホテル)
- 11/4 経済学部同窓会総会 (200名・ホテルグランヴィア京都)
- 11/4 国際関係学部校友会総会 (50名・レストラン「七番館」)
- 11/11 村上弘ゼミ同窓会総会 (22名・京都商工会議所)
- 12/2 機友会北陸信越支部総会 (20名・(財)環日本海経済研究所)



建設会総会

サークルOB・OG会

- 9/17 経営研究会同窓会総会 (22名・割烹「新山」)
- 9/17 軽音楽部OB会Super Session 2006 in OSAKA (80名・アサヒスーパードライ梅田)
- 11/4 経済学研究会OB会総会・懇親会 (40名・堀川翠明荘)
- 11/4 金太郎スキー同好会創立35周年記念式典 (180名・京都ブライhtonホテル)

- 11/10 体育会男子ソフトボール部OB会総会 (41名・京都ガーデンホテル「彩宴」)
- 11/18 証券研究会OB会総会 (47名・聖護院御殿荘)



証券研究会OB会総会



体育会男子ソフトボール部OB会総会

その他の会

- 10/7 マウンテンバイクツーリングサークル花鳥風月OB会総会 (25名・がんこ三条本店)



マウンテンバイクツーリングサークル花鳥風月OB会総会

- 10/21 ワンダーフォーゲル同好会創立50周年パーティー (250名・烏丸京都ホテル)
- 10/25 ロータリー立命会 (60名・天喜)



Ritsアートフォーラム総会

- 11/4 Ritsアートフォーラム総会 (40名・ホテルグランヴィア京都)
- 11/11 APU校友会関西地区懇親会 (50名・ホテルグランヴィア京都)
- 11/23 衣笠寮友会総会 (14名・京都タワーホテル)
- 11/25 スポーツフェロー「総長を囲む夕べ」 (70名・京都全日空ホテル)

2007年
4月

「さんしゃ」が生まれ変わります。

～ 2007年度産業社会学部改革の概要～

立命館大学に産業社会学部が誕生してから40年余りが過ぎました。

常に、「現代社会」の最重要課題を捉え、解決する方法を探究してきた産業社会学部。

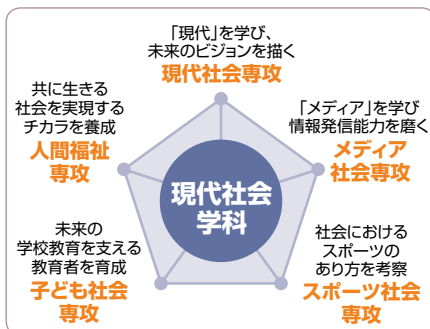
この産業社会学部が2007年4月から生まれ変わります。

今回は新しい産業社会学部の概要をご紹介します。



1 1学科5専攻制へ

2007年度からの産業社会学部は現代社会学科のもとに「現代社会専攻」「メディア社会専攻」「スポーツ社会専攻」「子ども社会専攻」「人間福祉専攻」の5専攻を設置します。社会の多様化・複雑化が進む中、「現代社会」の抱えるあらゆる課題を学問の対象とする産業社会学部は、これまでの教学領域を受け継ぎつつ、新たに「子ども」と「スポーツ」に関わる分野を強化・拡充します。



2 ますまです充実する資格課程

これまでもあった社会調査士・社会福祉士・精神保健福祉士などの資格取得につながる課程や従来の教職課程に加え、子ども社会専攻では小学校教員養成課程を、現代社会・メディア社会・スポーツ社会・人間福祉の各専攻で保健体育教員養成課程を新たに設置し(※)、全専攻において充実したキャリア教育を展開していきます。

(※課程認定申請中)

3 「クロスオーバーラーニング」で幅広い豊かな学びを

「クロスオーバーラーニング」とは、自分の専攻科目以外にも、関心に応じて他専攻の科目も学べる「産業社会学部ならではの」特徴的な学び方です。現代は、社会全体の様々な領域がクロスオーバーして成り立っています。つまり、「現代社会」における様々な課題は、一つの領域の専門性のみで語ることはできなくなっており、課題の解決には、複数の領域にわたって知識を持ち、多様な視点からものごとを見ることの

できる力が必要不可欠です。「クロスオーバーラーニング」によって、視野が広がり、各自の興味・関心に応じて大学での研究テーマの広がりが期待できると同時に、この学びによって培った多様性や複眼的な視野は、社会に出てからも役立ちます。

4 「さんしゃ」の伝統「アクティブラーニング」

もうひとつ、産業社会学部の伝統的な学びの一つとしてあげられるのが、アクティブラーニングです。学問を学ぶうえで、キャンパス内で行う理論学習はもちろん大切ですが、理論学習とともに、実際に現場に出かけ、現場でしか得られない経験を通じて問題の本質を捉えること、さらにそれを解決する方法や視野を育むことが大切です。これこそがアクティブラーニングの狙いです。新しい産業社会学部においても、このアクティブラーニングを重視し、調査活動やインターンシップ、ボランティア教育、など積極的に社会と連携した学びを推進します。

5 国際社会で通用する力の育成

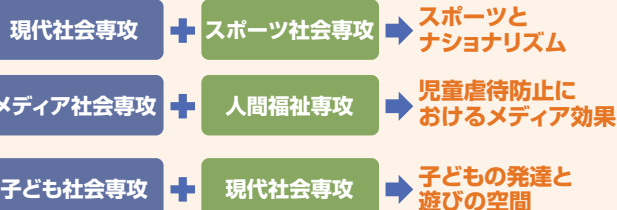
以上の特徴的な学びのほかにも、国際社会で通用する力を育成するプログラムとして、グローバルに活躍できる人材育成を目的とした5学部連携の学際プログラムを産業社会学部の専門科目と並行して学ぶ「国際インスティテュート」や、専門科目を英語で学ぶ学部独自の「英語副専攻」など、学部での学びを国際化する教育にも力を入れます。単に語学に長けた人材を育成するということではなく、幅広い視野や専門性を身につけると同時に、グローバル化する社会の流れに対応できる能力を持った人材を育成するのが国際化教育の狙いです。

6 新しい学びに対応した施設・設備の充実

新たに開設する小学校教員養成課程のため、新校舎を建設します。この新校舎には、模擬授業を行うことのできる学校教育演習室、理科の実習教育を行う「理科教育実習室」、音楽教育のための「ミュージックラボラトリー」などを整備します。また、産業社会学部の基本棟である以学館には、産業社会学部の学生が自由にパソコンを利用したり、自分のノートパソコンを持ち込んでグループワークもできるオープンパソコンルームを新たに設置。さらに、アクティブラーニングを支える施設として、調査やフィールドワークを行う学生が利用できるワークショップ・ラボ、映像・ラジオ番組制作のためのメディア制作ラボやスタジオ、社会調査士課程での調査実習のための社会調査士ルームなどを新たに整備し、学生の多様な学びを支援します。

新しい産業社会学部は、このような新たな学びの仕組みを通して、現代社会の諸課題に取り組む人材を育成し、「Well-Being」(誰もがよりよく生きられる)社会の実現を目指します。

クロスオーバーで生まれる新テーマ (一例)



※自分の興味と専攻を効果的に組み合わせることで、テーマは無限に広がります。

学園祭の目玉企画を競うR-1グランプリ。9月1日に発表された2006年度のグランプリを獲得したのは鉄道研究会の「TEXPO'06 ～そくだ、てっけん、いこう～」。「イノベーション」を目標に掲げ様々な企画を実施してきた、鉄道研究会学園祭企画責任者の村上直大さんにお話を伺った。

「TEXPO'06 ～そくだ、てっけん、いこう～」とはどのような企画ですか？

「TEXPO」とは、企画名を考える中で鉄道研究会が作った造語で「TRAIN EXPO」を略したものです。鉄道や交通分野に関する博覧会の様に位置づけて、いろいろな年齢層の方に見て頂き、鉄道研究会に親しみを持っていただこうという思いを込めて名づけました。

毎年、鉄道研究会では学園祭において研究成果の発表や模型などの展示を行っています。今年は、それに加えて他大学の鉄道研究会を招待した交流企画や、一般の方を対象とした体験型のイベント、展示を実施することになりました。また会場では各地の人気のある駅弁を販売する予定です。

今年の企画のポイントは来場者を能動的に取り込み、参加者、研究会員双方の成長を目指している点です。従来の企画では、来場者は展示を見るという受動的な参加の方法しかありませんでした。そこで今年からはクイズやペーパークラフトの工作など来場者に積極的に参加してもらい、双方向的なふれあいの中から新たな気づきを得られるような企画を数多く取り入れました。

学園祭自体のテーマも、来場者とのつながりを重視し、能動的に取り込んでいこうという意味を込めた「ジャンクション」です。このテーマを追及したことがR-1グランプリ獲得の一番の要因になっていると思います。

ときの人 Rits One



村上直大 さん

経済学部2年生

N a o t a k a M u r a k a m i

「イノベーション」を目標に掲げ、研究成果を一般に還元

鉄道研究会の活動について教えてください。

学術団体に共通することですが、鉄道研究会の使命は日頃の研究成果を一般に還元すること。毎年一つのテーマを設定し、そのテーマを一年間かけて研究します。最終的には、研究成果をまとめた機関誌『ポイント』を発行することが活動の中心になります。学園祭で行う研究発表もその中間報告にあたります。この機関誌『ポイント』は大手の書店や大学生協、図書館などに置いていますので是非手にとっていただきたいですね。

今年のテーマに設定して研究を行っています。

むらかみ なおたか
経済学部サービス・マネジメント・インスティテュート2年生。
鉄道研究会副会長。「TEXPO'06 ～そくだ、てっけん、いこう～」企画責任者。

ホームページもご覧ください
<http://www.ritsumeit.ac.jp/infostudents/index.html>

るのが、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンに皆さんが行かれる際に利用する「JRゆめ咲線」に代表される「短距離路線」です。「短距離路線」の持つ歴史的な背景や意義などを解き明かしていきたいと考えています。

「イノベーション」を合言葉に様々なことにトライされていますね？

経済学特殊講義の授業で聞いた「組織は常に改革を行っていかないと新しいものは生まれてこない」という言葉に感銘を受け、鉄道研究会も「イノベーション」を目標に掲げて活動を行っています。その具体的な例として、学園祭での参加型の企画や、他大学との交流会があげられます。

また、大学だけでなく、高校生との交流も行っていきたいという思いから実現したのが、2006年6月4日(日)に開催した三重県立上野高等学校鉄道研究会との

合同鉄道展示企画です。鉄道模型や鉄道写真、機関紙『ポイント』の展示などを行い、幅広い年代の方々に来場していただきました。この活動を通して、大学での研究発表のノウハウなどを高校生にも伝えることができたと思うので、今後も範囲を広げて継続していきたいと考えています。現状に満足せず、常に新しいことを提案していき、より良い形で研究成果を還元していきたいと思います。





「二世紀は「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代です。その中で教育研究機関には、新しい知識の創造を担う優れた人材の育成と研究の振興を担うことが求められています。また、各大学にはそれぞれの特色を明確にできる領域での社会貢献も求められています。」

立命館学園はこのような時代と社会の要請に応え、「グローバルな社会でリーダーシップを発揮する、たくましい人材(知性を備えた行動派)」を社会の中で育成できるよう、日本最大級の学内外ネットワークと先端研究による「ネットワーク教育・研究拠点化」を推進しています。

今回の学園政策ニュースでは、このような視点から学園政策の近況をご紹介させていただきます。

社会との連携による実践的な人材育成環境の充実

●映像学部

「武士の一分」特別試写会&山田洋次監督の公開講義」の開催

二〇〇七年四月開設予定の映像学部の開設準備企画として、十月三日(金)、山田洋次監督の最新作「武士の一分」の特別試写会、また同映画を題材にした山田洋次監督による公開講義が衣裳キャンパスで開催され、およそ五百人が来場しました。

映像学部では、学習へのモチベーションを高め、職業観を明確にするため、社会的ネットワークの中で人材を育成する取り組みを行っています。山田洋次監督の講座を開講することも予定しています。

「武士の一分」は監督 山田洋次氏、原作 藤沢周平氏のタッグによる三作目で、主



演に木村拓哉さんという話題作。かつて日本人が持っていた心と情愛の念を、一人の武士を通して深く優しく描いた作品です。

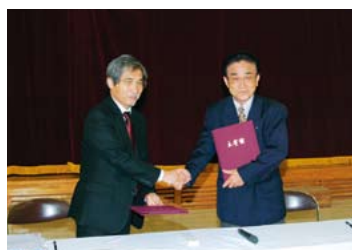
上映後の公開講義では映画のシーンを教材に、山田洋次監督、富田美香文学部助教授・映像学部着任予定者)そして映像制作を志す学生四人のディスカッションが行われました。

講義は山田洋次監督のより深く「映画や「人間」について学んでもらうというねらいに沿って進行。参加した学生の意見を中心に、随所に現代の事例などを交えながら、監督の熱のこもった指導が行われました。

●政策科学研究科 長野県下伊那郡町村会との学術交流協定の締結

政策科学研究科と長野県下伊那郡町村会は、十月二十日(金)、長野県飯田市内で、学術交流協定の調印式を行いました。

この調印は、政策科学研究科が進める文部科学省の魅力ある大学院教育イニシアティブ(大学院G.P.)に採択された「ローカル・ガバナンスの実践研究」の二環で、大学院生を各町村に派遣して実態にもとづいた研究を行うとともに、地域発展のための共同研究の政策現場への還元もねらうことが目的です。政策科学研究科が今後「ローカル・ガバナンスの実践研究」を進めるための協定の第号で、町村会にとっても初めての協定締結となりました。



大学院生たちは今後、春休みなどを利用して各町村に滞在し、各自のテーマに沿って研究を進めていきます。

●BKCキャンパスインフォメーションセンター「キャンビー」オープン

九月十三日(水)、びわこくさつキャンパス(BKC)で、「BKCキャンパスインフォメーションセンター キャンビー」開設にかかわる竣工式が行われ、立命館大学関係者、設計・施工関連の方々など約六十名が出席しました。

キャンビーは、BKCの顔として地域の方々と交流を更に促進するための案内所として設置されました。一九九四年の開設以来、地域の方々とともに発展してきたBKC。地域の方々が更に訪問しやすくなるようにしたものです。

楕円形の総合案内所と直線を活かした二階建ての事務所棟で構成され、総合案内所は路線バス停留所に隣接。学外からの来校者等へのキャンパス内の案内や、市民も参加できる公開講座やイベントの情報なども提供します。事務所棟には(株)クレオテックのオフィスとバス会社の案内所が入っています。

キャンビーは、地上二階建て、建築面積約二四〇㎡、延床面積約一七〇〇㎡。来校者を雨や直射日光から守るため、バス停の屋根は道路の曲線に沿ってフレーム状に張り出されたデザインになっています。「キャンビー」は、英語で「張り出し屋根」を意味します。

国際的な連携による世界に通用する人材育成環境の充実

●APU孔子学院の設立

十月二十五日(水)、立命館アジア太平洋大学(APU)において、日本で五番目の孔子学院を設立する協定書の調印式が行われました。

APUでは現在、約四四〇名の中国人留学生・大学院生が学んでおり、中国語クラスを履





修している学生が日本人だけでなく、韓国人が
一〇%、インドネシア、タイ、ベトナム、マレーシ
ア、ミャンマーなど
の東南アジアの学
生が二〇%もいま
す。APU孔子学院
の設立は、世界中の
学生に中国文化に
触れる機会を設け
ることが目的とな
ります。

現在、五十力国・
地域で百十四の孔
子学院が設立されて



現在、立命館の例は一つの学校法人に一つの孔子
学院をつくる最初のケースとなります。また立
命館孔子学院は日本で最初のものであり、AP
U孔子学院は九州ではじめてのものとなります。
調印式は、中国教育部副部長の李衛紅氏
をはじめ、駐日本国大使館公使参事官の李東翔
氏、駐福岡総領事館総領事の武重朋氏、中国政
府教育部国際合作交流局副局長の劉宝利氏等
を迎えて行われました。

●文化遺産防災プログラム

「文化遺産危機管理国際研修」の実施

十月二十三日(月)から、歴史都市防災研究セ
ンターは、文化遺産の防災を学ぶ世界で初めて
の国際研修プログラム「文化遺産危機管理国際
研修」を京都や神戸などで実施しました。

文化遺産防災は国際的に重要性が認識されて
きました。文化財と防災の両方が分かる人材
が不足しているため、このような人材育成プロ
グラムを実施しました。

対象はアジアの政府担当者で、日本での実践
を基に各国の文化遺産防災計画を作成。今後の
対策に生かしてもらうことを目的としています。
プログラムは、アジアにおける文化遺産防災
ネットワークの構築と人材育成のため五年間実
施。ユネスコ認定の教育事業「ユネスコチャ」と
して文化遺産防災分野で世界で初めて選ばれま

した。

今回はインド、インドネシア、パキスタン、韓
国から政府の文化遺産や防災の担当者計八人が
参加。文化遺産防災についての講義のあと、地域
と一体で防災対策が進む清水寺と周辺地域、阪
神淡路大震災で深刻な被害を受けた灘の酒蔵と
復旧の現状などのフィールドワークを行い、各国
ごとに防災計画を作成しました。

●ベトナム・丁高等教育人材育成事業の実施

慶応義塾大学と共同で、ベトナム・ハノイ工科
大学において「ベトナム・丁高等教育人材育成フ
ログラム(二〇〇六・二〇〇四)を実施しています。

このプロジェクトは、国際協力機構(JICA)
と国際協力銀行(JBIC)の協力を得て実施。
JBICからはベトナム側に五十四億円の円借
款が貸与されます。

ベトナムのIT化を
リードする高度な
IT人材を養成す
ることによって、ベ
トナムと日本両国
の発展に寄与する
ことを目的として
います。



ハノイ工科大学

すでに日本のカ
リキュラムに沿った高度IT教育をハノイ工科大
学で始めており(学年百二十名、二〇〇九年か
ら立命館大学情報理工学部と慶応義塾大学環
境情報学部とにそれぞれ十名の留学生を受け入
れます。

さらに、ハノイ工科大学で二〇二年度に予定
されている新学部の設置に向けて、カリキュラム
や教授法等について、立命館からは八名のスタッ
フを派遣することなどで協力。慶応義塾から二
名、民間企業からも五名のスタッフが加わりま
す。そして現地のスタッフに教授・指導の方法な
どを含めて総合的なアドバイスをしています。

ベトナムの政府・大学と連携した国際プロジェ
クト。立命館の人材育成は国際的にも広がって
います。

一貫教育の強化による 人材育成

●立命館守山キャンパス上棟式の実施

十月十日(火)、滋

賀県守山市にて「立
命館守山キャンパ
ス」の上棟式を行
いました。上棟式に
は立命館学園関係
者、守山市関係者
、設計・施工者等、約
六十名が参列。



立命館守山キャン
パスは、立命館守山高等学校と二〇〇七年四
月に開設予定の立命館守山中学校(入学定員
百六十名のキャンパスとして使用されます。こ
の立命館守山キャンパスでは、グローバル社会で
リーダーシップを発揮する人材を育成すべく、
中・高・大・院 貫教育プログラムによる人材育
成や地域連携をより一層すすめる、地域社会こと
に発展することを目指します。

敷地面積は約三八四九〇㎡。地上五階建ての
高等学校教室棟と地上三階建ての体育館の二棟
を新築するなどの工事を行っています。

●「リッツ・スーパースサイエンス・フェア」 の実施

十月三日(金)、世界十力国・地域の高校生た
ちが科学を通じて交流する「リッツ・スーパ
サイエンス・フェア」がびわこくさつキャンパス
(BKC)で行われました。

「リッツ・スーパースサイエンス・フェア」は立
命館高等学校が毎年開催しており、今回は中
国、韓国、台湾、オーストラリアなど海外の高校
十二校と立命館高など日本の高校五校から計
百八十八名が参加しました。

研究発表が五グループに分かれて行われ、高
校生たちはお互いにサイエンスに関する研究内
容を発表し、親睦を深めました。

校友・学生の活躍



中国古箏奏者伍芳さん(96産社)デビュー十周年記念コンサートを以学館二号ホールで開催

九月二十四日(日)、産業社会学部卒業生で中国古箏奏者の伍芳(ウーファン)さんがデビュー十周年記念コンサートを衣笠キャンパス以学館号ホールで行い、約三百名の学生、校友、父母らが訪れました。

素晴らしい演奏の合間に伍芳さんは、「立命館大学は卒業して時が経つほどに母校であることの喜びが増す大学。今後もしも立命館出身であることを



誇りにして努力していきます」と語りました。伍芳さんの恩師・赤井正二産業社会学部教授もステージに登場し花束を手渡しました。

伍芳さんは、立命館大学と校友会がすすめるジョグジャカルタ震災復興支援事業にも協力。会場で参加者に支援を訴えました。

体育会ボート部吉澤一哉さん(理工4)水没する車から親子3人を救出

十一月三日(金)、親子三人が乗った乗用車が加古川に転落する事故が起きました。その際、近くで行われていた関西学生漕艇秋季選手権大会の救助



ボートに乗っていた体育会ボート部の吉澤一哉さん(理工4)と滋賀大学3回生の

粉川智広さんが、水没する直前の車の窓から三人を救出しました。この人命救助に対して、加古川市長より感謝状が贈呈されました。

吉澤さんは、「まさか目の前で事故が起きるとは思わず、驚いて、早く助けなければという感じが考えられませんでした。感謝状をいただけるなんて光栄です」と語りました。

茶道研究部・邦楽部 堂本印象美術館にて「和のおもてなし」

十一月十日(金)、堂本印象美術館にて「立命館大学茶道研究部・邦楽部による呈茶・演奏会」が開かれました。立命館は二〇〇六年六月一日に京都府立堂本印象美術館の指定管理者となりましたが、今回の催しは、立命館大学学生と堂本印象美術館との交流がより一層深められたことを象徴するものとなりました。

呈茶・演奏会に訪



れた多くの来訪者は、秋の穏やかな日の差し込む和室で、邦楽の演奏に耳を傾け、美味しいお茶と和菓子を味わいながら、ゆったりとした時を過ごしていました。

茶道研究部の西本史江さん(法3)は、「こういった機会に般の方々に茶

道を楽しんでもらえることを大変嬉しく思っています。今後も茶道を通して地域の方々と交流を図っていきたくです」と語り、邦楽部の大萩康喜さん(法3)は、「日頃の成果の披露と地域

ベンチャービジネスコミュニティ(VBC)が 齊藤酒造株式会社と日本酒セットを共同開発



ベンチャービジネスに関心のある学生でつくる「ベンチャービジネスコミュニティ(VBC)」が、京都市伏見区の酒造メーカー「齊藤酒造」と日本酒セットを共同開発しました。

若者に日本酒を飲んでもらうための販売戦略を考えようと、同酒造が二〇〇五年十月からVBCの学生三人と共同でプロジェクトを開始。親子等で「さしづ、さされづ」日本酒を楽し

んでほしいというコンセプトのもと、VBCのメンバーが商品やデザイン、広告などを考えました。開発した商品は、日本酒(百八十三)四本に、酒を温めたり冷やしたりするための陶製容器、ちよこ二個などのセット。VBC代表の徳野昌己さん(経営3)は「狙いは親子で飲む酒。パレンタインダーの贈り物などにも利用してほしい」と説明しています。

セット二千円で、十月二十四日から京都市内や大阪のデパート、コンビニエンスストア等を中心に販売しています。

地域社会との連携による先端研究



歴史都市京都の安心安全3Dマップの開発 ―身近に潜む災害と犯罪の危険度―

文学部の中谷友樹助教が、京都市内の水害や地震災害などの被害想定区域と犯罪発生多発地域が三次元で確認できる地図「歴史都市京都の安心安全3Dマップ」をウェブサイト上で公開しました。

この「3Dマップ」は、GIS(地

理情報システム)を活用したもの。二千五百分の一の地図データに、京都市消防局による京都市防災マップと京都府警が発行する犯罪統計書の情報を重ね合わせたものです。

防災に関する情報は大雨時の浸水想定区域や花折断層地震による家屋

白川静名誉教授 ご逝去 「お別れの会」を挙



2006年10月30日(月)、立命館大学名誉教授白川静先生が逝去されました。96才でした。

先生が綿密な論証を積み重ねて確立された「白川文字学」の体系は、中国古代哲学・文化から東洋全域にわたる民俗学・考古学にも及ぶ壮大なものとなり、先生はその功績により、文化勲章をはじめとする様々な賞に浴されました。

12月7日(木)には、ホテルグランヴィア京都において「白川静先生 お別れの会」が執り行われました。

参加者全員から黙祷がさげられた後、長田豊臣立命館総長が、「先生は我々立命館出身者にとって導きの星であり、精神的支柱でありました。私たちは先生の功績・情熱を受け継いで後進を育成してまいります」と告別の辞を述べました。

続いて大阪大学名誉教授で「立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所」顧問の加地伸行氏より白川先生の数々の功績が紹介され、立命館大学文学部長・同研究所副研究所長の木村一信教授が、白川先生が愛読していた薄田泣菫の詩集「白羊宮」から「望郷の歌」を朗読しました。

また、白川先生のご長女・津崎史様は挨拶の中で、先生の父親としての一面や囲碁や将棋といった趣味についてなど、あまり知られていなかったエピソードにも触れられました。

およそ650名にのぼった参加者は、白川先生の遺影に静かに手を合わせ、花を捧げながら、先生との別れを惜しんでいました。

産業界との連携による先端研究



通行人を識別し、一人ひとりに合った情報を自動的に壁などの大型画面に

表示する新たな広告システムを、情報理工学部の西尾信彦教授と株式会社

株式会社リクルートとの共同研究の成果 —通行人を識別し、興味を持ちそうな情報を発信する広告システム

新しいモデルケースとなっています。オムロンには客員教授の派遣や大学院生の研究支援、研究施設の相互開放に協力していただきました。



リクルートが共同開発しました。二〇〇五年末から共同研究を進めていたもので、このほど西尾教授が開発したのは、服装や携帯電話が発する光など事前に設定した個人の特徴に応じて人物を認識する技術と、通行人の歩くペースに合わせて画面に表示される情報自体が動き、人が立ち止まるとさらに詳細な情報を表示する技術。これに、年齢などによって各人が興味を持ちそうな情報を選択・加工できるリクルートの技術を組み合わせた。数台のカメラとパソコン、プロジェクトアという簡単な機材で実現でき

るのが特徴です。本研究は最先端のユビキタス研究の成果であり、西尾教授は「米映画『マイノリティ・リポート』で表現された未来社会のようないくつかの巨大ディスプレイに個人を対象にした広告配信を現実化できる研究成果だ」と語っています。



オムロン株式会社との技術・人材育成の両面にわたる産学連携の成果

二〇〇三年末にオムロン株式会社と「産学連携協定」を締結しましたが、この協定を二〇〇七年度以降も延長する方針を決めました。この産学連携の研究テーマは、超微小電子機械システム(MEMS)技術による次世代電子部品の開発。理工学部の杉山進教授がオムロン社員を大学院博士後期課程に受け入れて共同研究に取り組んだ結果、社員が博士号を取得するなど人材育成面でも成果を出しています。

従来の一般的な産学連携は技術に特化した情報交換的な意味合いが大きかったのですが、この協定は技術面と人材交流・育成面の両方を重視した

被害・火災被害など、防犯では平方キロメートルあたりの窃盗犯や粗暴犯の犯罪認知件数(二〇〇四年度)などが含まれています。利用者は画面上で地図を動かして、見たい場所の危険度を調べることができます。

身近な生活空間に潜むリスクを統合して配信するシステムは世界でも初めてのもので、中谷助教は「将来は京都府全域を対象として、交通事故件数などの新情報も追加したい」と話しています。

地図はインターネットを通して自由に閲覧できるほか、歴史都市防災研究センターの展示室でも見学できます。

http://www3.rits-coe.jp/ritsumei_kyoto/



S P O R T S &

SPORTS

問い合わせ先:スポーツ強化オフィス
075-465-7863



アメリカンフットボール部

関西学生リーグ

▶6勝1敗 2位



ラグビー部

関西大学Aリーグ

▶4勝3敗 4位

*全国大学ラグビーフットボール選手権大会
出場決定(3年連続9回目)



バドミントン部

第57回全日本学生バドミントン選手権大会
(10月28日~11月2日 京都市体育館 他)

▶女子ダブルス 3位

通次尚美(政策4)・今井杏莉(国際3)

▶個人シングルス ベスト8 後藤舞(産社4)



サッカー部

関西学生サッカー 秋季1部リーグ

▶6勝2敗1分 2位



弓道部(男子)

関西学生1部リーグ戦

▶優勝(3年ぶり6回目)



弓道部(女子)

関西学生1部リーグ戦

▶優勝

10月29日(日)、弓道女子の関西学生1部リーグ優勝決定戦が、立命館大学、近畿大学、甲南大学の間で行われ、5時間にもわたる試



合の結果、2年ぶり7度目の優勝を飾りました。この試合で関西代表権を獲得した女子部は、11月23日から25日まで伊勢神宮弓道場で開催された全日本学生王座決定戦(全国各地から計10校)へ出場しました。



女子陸上競技部

第24回全日本大学女子駅伝対校選手権大会
(10月29日 宮城陸上競技場→仙台市役所
6区間38.6km)

▶優勝(2年ぶり3度目)

第24回全日本大学女子駅伝対校選手権大会において、立命館大学は2位に終わった昨年



の雪辱を遂げ、2年ぶり3度目の優勝を果たしました。

他校からはメダリストなど有力選手が多数出場し厳しいレースとなりました。

しかし部員たちの「頂点に返り咲く」という強い意志とチームワーク、そして見事な7人抜きを演じた2区走者の小島一恵選手(経営1)をはじめ全6区間中4区間で区間賞を取った総合力で優勝を勝ち取りました。

沿道には陸上競技部OB・OG会、地元宮城県や東北各県の校友会をはじめとした多数の校友や父母が、京都から駆けつけた応援団とともに熱い声援で選手の背中を後押ししました。



男子陸上競技部

第18回出雲全日本大学選抜駅伝競走大会
(10月9日 出雲大社→出雲ドーム 6区間44.0km)

▶10位

全国の強豪校がひしめく中、昨年より順位を上げて健闘しました。島根県在住の校友と現役学生の父母が協力して、力強い声援を送りました。

第68回関西学生対校駅伝競走大会
(びわ湖大学駅伝)

(11月18日 西浅井町役場→膳所城跡公園
8区間83.4km)

▶総合2位



ヨット部

第71回全日本学生ヨット選手権大会
(11月2日~5日 福岡市立小戸ヨットハーバー)

▶総合 4位

▶470級 5位



航空部

第26回東海・関西学生グライダー競技会
(11月5日~12日 岐阜県木曽川滑空場)

▶団体 2位

▶個人 優勝 片岡優司(文3)



硬式野球部

関西学生野球六大学秋季新人戦

▶2位



準硬式野球部

関西六大学準硬式野球秋季リーグ

▶優勝(9季ぶり25度目)

10月22日(日)、同志社大学野球場で行わ





EVENTS

れた関西六大学準硬式野球秋季リーグ優勝決定戦で、立命館大学は関西学院大学に3-2で勝利し、9季ぶり25度目のリーグ優勝を勝ち取りました。今秋季リーグ戦は、最終節を終了した時点で関関同立4校が7勝3敗で並ぶという大混戦で、60年にわたるリーグ史上初の4校によるプレーオフとなりました。

陸上ホッケー部 (女子)

第28回全日本学生ホッケー選手権大会
(10月28日～11月1日 山梨学院大学ほか)

▶2位

バレーボール部

関西バレーボール大学選手権大会
(11月18日～19日 天理大学他)

▶3位

フェンシング部

全日本学生フェンシング選手権大会
(11月22日～26日 大山崎町体育館)

▶男子エペ団体 優勝

(10月14日 同志社大学)

立論の部 第1位

10月14日(土)、同志社大学で行われた標記の大会において、学術公認団体の法友会が立論の部で第1位を獲得しました。発表者は近藤麻衣子さん(法3)でした。法友会は、今回の大会結果により12月2日(土)に中央大学で行われた全国大会に出場しました。



将棋研究会

関西秋期一軍戦

▶優勝

関西学生将棋連盟

平成18年度秋期個人戦本戦

▶優勝 稲葉聡(経営3)

▶準優勝 瀬戸真樹(情理2)

平成18年度秋期女流戦

▶優勝 赤井芽久美(政策3)

囲碁研究部

第43回全日本学生囲碁十傑戦

▶優勝 小野慎吾(経済5)

秋季関西学生囲碁リーグ戦

▶優勝

メディックス

第61回関西合唱コンクール

(10月8日 いたみホール)

▶大学部門Bグループ 金賞

メンネルコール

第61回関西合唱コンクール

▶大学部門Bグループ 金賞

第59回全日本合唱コンクール全国大会

(11月25日 熊本県立劇場コンサートホール)

▶大学部門Bグループ 銀賞

マンドリンクラブ

第20回日本マンドリン独奏コンクール

(10月7日 尼崎ピッコロシアター)

▶優勝 平上元子(文5)

立命館からは1976年
以来の快挙

EV-Racing

2006エコソラーバ

イクレース IN浜松

(11月18～19日 浜松オートレース場)

▶総合7位 特別部門 敢闘賞入賞

第4回京都学生祭典開催

立命館からも多数の参加

(10月7日、8日 京都市内)

第4回京都学生祭典が、10月7、8両日に開催され、田中翔君(産社3)が実行委員長を務めました。本祭1日目の7日は会場の京都駅ビルに約2万1千人、さらに2日目は平安神宮・岡崎周辺に約15万3千人の来場者が集まりました。

2日目に行なわれた『京炎そでふれ!全国おどりコンテスト』には立命館大学から「櫻嵐洛」、「モダンジャズバレエ部」、「SECOND CREW」、「おどりっつ」、「きじむな」などが出場。立命館アジア太平洋大学からも「ベトナムサークル」と「大草原の風」(モンゴル)が出場し、それぞれの

国の伝統的な踊りを披露しました。どの団体も日ごろの練習の成果を十分に出し切って観客から大

きな拍手を受けていました。また立命館大学の交響楽団メンバーたちが参加したDream Orchestraは、本格的な交響曲に加え、「ありがとう」という感謝をテーマに演奏を行いました。京都中の学生が集まり、大変賑わったこの祭典は、2日間の企画を無事終えて今年も成功を収めました。



文化・芸術

問い合わせ先:学生オフィス
075-465-8141

吹奏楽部

第54回全日本吹奏楽コンクール
(10月28日 宇都宮市文化会館)

▶銀賞

写真部

第91回 二科展
写真部学生部門D

▶デジタル作品

フジフィルム賞受賞 柳沢裕(法4)



法友会

平成18年度秋季関西学生法律討論会

*進化の著しい我が母校、とりわけ2006年は小学校と立命館守山高校の開校に始まり朱雀キャンパス開設に本部移転、そして新総長選出と激動の年となった。白川先生を喪うという大きな痛手もあった。体育会OB・OGの集まりである立命館スポーツフェローも今年は大きな動きがあった。発足以来指揮を執って来た鴨脚名誉会長と杉江理事長が相次いで亡くなられ、大幅な役員交代をした。村岡治新会長の下、現役部員の活動をより強力に援助できるよう、全部のOB・OG会が一丸となって研鑽していくべく、新たな一歩を踏み出した。えうご期待! (G)

*先日、川口清史新総長の就任記者会見に立ち会いました。川口新総長は、立命館の特色を「真に社会に役立つ人材を社会の中で育成すること」と捉え、これからの社会とのコラボレーションによる立命館モデルを創出することを強調されておりました。

これまでの立命館は、小中高大院一貫教育の拡充、ピア・エデュケーション、国際連携、地域・社会連携、産学連携など、学内外のネットワークを拡充する改革によって、教育・研究の質を向上させてきました。その結果、立命館の教育システムは特徴のあるものと評価され、学生や教職員も元気であると言われます。

このような立命館も新たなステージ。「りつめい」でも、改革とその成果に重点をおいた編集にできればと思っています。(やまとも)

*あったかいお酒が恋しい季節となった。上手く燗をすれば、身体が内側からぽかぽか温まるだけでなく、ふくよかな香りとまろやかな味わいが楽しめる。明治の文豪、幸田露伴が娘の文さんに「酒は心で注げ」と日ごと燗酒について指南したのは有名であるが、そうした日本独特の繊細な感覚がなした燗酒の文化はなくなるのでは、と思っていた。しかし、ここ数年人々が求めるスローライフ、スローフードにつながるのか、復活の兆し。

最近、大学と企業がコラボし、さまざまな商品が生み出されているなかで、ここ立命館の学生が伏見のメーカーとの共同開発で、酒を温めたり冷やしたりできる陶製容器とちょこを組み合わせた日本酒セットを作っている。商品やデザイン、広告も若い感覚で考えたようだ。狙いが、バレンタインデーに贈るといのはともかく、親子でさしつ、さされつ飲むように、というのはなかなかいい。デジタルに頼らないゆっくりした時間のなかでのコミュニケーションは今一番人々に必要だろう。ただ、くれぐれも飲みすぎで、メタボリックシンドロームに陥らないように。飲酒運転も厳禁のこと。(祐)

りつめい No.227/2007年1月号

発行所/立命館大学校友会/年4回発行

発行人/山崎 諄

編集人/尾崎 敬則

〒604-8520 京都市中京区西ノ京朱雀町1

Tel. 075 (813) 8216

Fax. 075 (813) 8217

URL: http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/

E-mail: alumni@st.ritsumei.ac.jp

●校友会・グループ インフォメーション

※(職)は職場電話番号

校友会・グループ	日時	会場	問い合わせ先
栃木県校友会総会	1/27(土) 13:00	宇都宮東武ホテルグランデ	小林睦男 028(661) 6606
姫路立命会	2/10(土) 15:30	まねき食品(株)3階ホール	尾上 誠一 079(288) 3811
京田辺支部創立50周年記念講演会	2/17(土) 13:00	京田辺市中央公民館	岡山稔 0774(63) 2244
愛知県校友会東三河支部総会	3/17(土) 18:00	豊橋グランドホテル	鈴木宣央 (職)0532(54) 5221

●校友消息(判明分)

叙勲 2006年秋分

◆瑞宝重光章

吉川義春氏('59法)

元大阪高裁判事

◆瑞宝小綬章

佐々木善市氏('49専法経)

元京都府警警ら部長

大西盛治氏('50専法経)

元京都市清掃局長

堀 徳治氏('51経済)

元公立高校長

船登芳雄氏('55文)

元公立高校長

松本正彦氏('55法)

元京都府検副検事

堀居善夫氏('57経済)

元尼崎郵便局長

◆旭日双光章

品川弥太郎氏('55経済)

元中小企業診断協会

京都支部長

◆瑞宝双光章

古澤慶一氏('41専経済)

元公立中学校長

前田 譲氏('51法)

元公立中学校長

豊原成彦氏('56法)

保護司

大野 哲氏('59経済)

元大津市助役

長谷川信三氏('59法)

保護司

◆瑞宝単光章

疋田春夫氏('55文)

京仏具製造業従事者

危険業務従事者叙勲

2006年秋分

◆瑞宝双光章

増田陽三氏('56理工)

消防功労

◆瑞宝単光章

北脇恒雄氏('49専工)

警察功労

堀龍太郎氏('56法)

警察功労

中川武志氏('58法)

矯正業務功労

褒章 2006年秋分

◆黄綬褒章

門 弘氏('60理工)

近畿コンサルタン

代表取締役

苗村敬夫氏('60理工)

特殊光学研究所代表

浅田詔夫氏('69法)

土地家屋調査士

受賞

◆防災功労者内閣総理大臣表彰

土岐憲三氏(理工学部教授)

◆2006年度光化学協会賞

民秋均氏(理工学部教授)

◆ロレアルの科学と芸術賞 金賞

北岡明佳氏(文学部教授)

◆平成18年度青森県文化賞

稲葉克夫氏('62院文)

◆京都府あけぼの賞

平林幸子氏('71法)

◆京都市教育者表彰

川本八郎氏

(本学理事長・'58法)

私学振興功労

中村浩三氏('76産社)

小学校教育功労

◆京都新聞大賞 スポーツ賞

芝田徳造氏(本学名誉教授)

就任

国井正幸氏('70文)

農林水産副大臣

松見 弘氏('69経済)

和歌山市 助役

井辻秀剛氏('84経済)

コカ・コーラ カスタマー

マーケティング 社長

訃報

白川 静氏('43法文)

(本学名誉教授)

10月30日ご逝去。96歳。

奥田秋三氏('50専理)

(本学名誉教授)

11月7日ご逝去。82歳。

向井俊彦氏

(文学部教授)

5月14日ご逝去。62歳。

西尾 悟氏

(理工学部教授)

10月15日ご逝去。43歳。

2006年度各種国家試験合格者

※在学生を含む

●国家公務員Ⅰ種	44名
●司法試験	新27名、旧6名
●公認会計士	*31名
	(*12月1日現在判明分)
●家庭裁判所調査官補Ⅰ種	1名
●国家公務員Ⅱ種	132名
●弁理士	9名

あなたの最新の 校友情報を お知らせください

お名前・ご住所・電話番号・勤務先等に変更が生じましたら、校友会事務局までご連絡下さい。当会では個人情報保護法に基づき、情報の慎重な取扱に努めてまいります。

住所等変更通知専用フリーダイヤル

Tel. 0120-252094

Fax. 0120-252095

※ 発送の準備はご送付の1ヵ月前に行っているため、ご連絡いただく時期によっては、変更内容が最新号発送に反映されない場合がございます。ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください。

各種証明書 発行依頼先について

卒業証明書・成績証明書などの発行依頼は、各学部事務局までお願いします。

ダイヤルイン電話番号

■法	075-465-8175
■文	075-465-8187
■産社	075-465-8184
■国関	075-465-1211
■政策	075-465-7877
■経済	077-561-3940
■経営	077-561-3941
■理工	077-561-2625

なお、証明書は卒業時のお名前での発行になります。改姓後のお名前で発行をご希望の場合は、ご卒業の学部事務局にお問合せください。

BOOKS

◆ 一色 尚氏('65法) 著
『校長力ーできる校長、できない校長』
日本教育総合研究所*1800円+税

◆ 藤田友治氏('73院文) 著
『遣唐使・井真成の墓誌ーいのまなり市民シンポジウムの記録ー』
ミネルヴァ書房*2500円+税

◆ 岩田 薫氏('92法) 著
『Talking with Angels
イタリアの天使達』
パロル舎*2200円+税

◆ 山本 美香氏('99文) 著
『まあるい思い出』
新風舎*1000円+税